

## 第2回 地方議会・議員のあり方に関する研究会（議事概要）

## 【議事概要】

- 大臣挨拶の後、初出席の構成員から自己紹介を行った。
- 全国市議会議長会及び全国町村議会議長会からそれぞれ発表を行い、その後自由に意見交換を行った。

## 【意見交換における主な議論】

- 議会が置かれた状況の報告を行っていただき、議会によって随分違いがあることが確認できたが、各議会に共通した要望もあったのではないかと。【只野座長】

## （選挙区の設定について）

- 市町村合併を行った団体では、市町村議会議員の選挙を自治体の区域全体ではなく、選挙区を設定して実施することもできるのではないかと。選挙区を設定することについてどのように考えるか。【岩崎構成員】
- 2市5町で合併したが、議員は130人程度から34人になった。再来年の改選では定数30人になる。出雲市の面積は、おおよそ東京都23区と同じ面積である。選挙区を設けるとなるとどのようにすればいいのか難しい。全市で1つの選挙区だからこそ、30人で選挙ができるのではないかと。議員がいない地域もあるが、みんなでカバーしていくことが全市を代表する議員の役割ではないかと。【川上構成員（全国市議会議長会）】
- 有田町は2町で合併して13年であるが、別の町を知るという意味もあり、全域での選挙がいいのではないかと。他方、5町や10町での合併であれば、選挙区を設けなければ短い選挙期間では回れない。【松尾構成員（全国町村議会議長会）】

## （得票数の違いについて）

- 当選した議員の得票数には違いがあるが、得票の多寡が議員間で意識されるのか。【岩崎構成員】
- 得票順に当選するが、1番も32番も変わらないと思う。4年間どういう活動をしていくかによって、最下位で当選した議員が次の選挙で上位になり得る。優劣はないのではないかと。【川上構成員（全国市議会議長会）】
- 当選者の中に得票数での優劣は全くない。選挙が終わって当面の間、格好がいいか悪いかということはあるが、本格的な活動に当たっては当選回数の方が意味

を持つ。【安達構成員(全国市議会議長会指定都市協議会)】

- 議会の中で得票数の大小の隔たりはないが、新人は期待票で多く票をとることがある。その後、4年間の仕事の実績が次の選挙に反映されるので、得票が多い方は頑張ったという感覚で捉えている。【松尾構成員(全国町村議会議長会)】

(連記制について)

- 有権者の投票は、現在は1人の候補者を選ぶ「単記投票」であるが、基礎自治体の選挙は直接自分の生活に関わるような論点と関わってくるので、複数人を選ぶ「連記投票」にすることについてどのように考えるか。【岩崎構成員】
- 連記制は考えたこともなかったのですが、面白いと思うが、感覚としては難しいのではないかと。どういう結果、効果が出てくるのか不安はある。【川上構成員(全国市議会議長会)】
- 複数の当選者がいる中で、複数の候補者に投票することはいいのではないかと。結果が変わってくるのではないかと。現状では実現は難しいと思うが、いい案だと思う。【安達構成員(全国市議会議長会指定都市協議会)】
- 面白い提案だと思いつつ、人気がある方に偏りが出るのではないかと。やってみないと分からないが、検討の余地はあるのではないかと。【松尾構成員(全国町村議会議長会)】
- 連記制は、女性議員を増やすのに効果的だと思う。初めて女性議員が出た垂水市についての新聞報道で見たのは、女性の有権者が、やはり女性がいた方がいいと考えているが、地域の付き合いがあって女性に票が入れられないという話。もし2票あれば、1票は女性に入れられる。少しハードルが高いような話だが、大胆な改革を考えないと現状を打開できないのではないかと。【大山座長代理】

(クォーター制について)

- 多様化の観点からは、男女の候補者がペアで立候補することや、比例代表であれば名簿に男女の候補を交代に載せることなどの工夫が諸外国で行われている。自治体の中で、議会として女性議員の割合を増やすためにクォーター制を設定することについてどう考えるか。【岩崎構成員】
- 市議会議員の場合、ほとんどが無所属であり、政党を前提とした女性枠は厳しいのではないかと。市で開催している中学生議会での取組を見ても、女子学生が男子学生よりも積極的に行動していた。地域住民の考えもあると思うが、枠を設けなくても、女性はしっかりとやってくれるのではないかと。【川上構成員(全国市議会議長会)】

- 女性議員が増加しないといけない。しかし、枠を作ると、投票数による優劣ではないが、優遇されたものとして逆の意味づけが生じるのではないか。それよりも、女性が選挙に出やすくする方策を検討する方がよいのではないか。【安達構成員（全国市議会議長会指定都市協議会）】
- 地域によっては、ある程度枠を設けないと女性の登用は難しいのではないか。16人議員がいたら、2枠か3枠程度を女性枠として指定していかないと登用は難しいのではないかと考えていた。【松尾構成員（全国町村議会議長会）】
- 現役の女性議員にどうしたら女性議員が増えるかとインタビューしたら、供託金がネックになっているという。割と裕福な家庭の女性でいろいろと活動をしていても、意外と自由なお金は出せない方が多いので、考える余地があるのではないか。【大山座長代理】

（議員の職業について）

- 議員の職業のうち専業の方について、都道府県や指定都市では議員報酬を主たる生計の手段としている方だと思っているが、小規模な市や町村では専業となっている方の中にはリタイアして年金をメインに考えている方もいるのか、印象でいいので伺いたい。【大屋構成員】
- 出雲市議会では農業をやっている方が多い。兼業では福祉・医療関係が多い。【川上構成員（全国市議会議長会）】
- 町村は農村地帯が多いので、本日の発表でも職業別では農業が約30%、議員専業は約20%だと報告した。議員報酬が少ないので、私の町でも会社をリタイアされた60歳以上の方が半分以上となっている。【松尾構成員（全国町村議会議長会）】

（議会による情報発信について）

- 役所の人もよく情報発信しているというが、行政事業レビューなどでは、発信することだけでなく、どれだけの人に届いたかが重要と言っている。議会による情報発信も、どれくらいの方に情報が届いているのか紹介いただけないか。【大屋構成員】
- 私の町では、フェイスブックやメールでの情報発信は16人中10人くらいはやっている。【松尾構成員（全国町村議会議長会）】
- 神戸市会では、議会事務局でフェイスブックをやっていて、フォロワー数は1,500人くらいとなっている。【安達構成員（全国市議会議長会指定都市協議会）】

(議員報酬を定める際の基準について)

- 議員報酬は、町村ではおそらく公務員の30代、40代の給料よりも低い額であり、指定都市になるとそれよりも高い額ではないかと思うが、さらに自分で身銭を切って選挙費用を捻出するとなると立候補が難しくなるのではないか。議員報酬について、決める際の基準としてどういうものを念頭に置いているのか。社会保障を含めて報酬を考えるということが検討されているか。【河村構成員】
- 出雲市では最近議員報酬を3%上げていただいた。報酬等審議会を8年ぶりに開催した。平成15年頃の議員報酬が最も高かったが、そこまでは戻っていない。社会保障との一体的な報酬ということは考えていなかったもので、検討していきたい。【川上構成員(全国市議会議長会)】
- 指定都市は同じ規模の指定都市との横並びになっているのではないか。神戸市では阪神・淡路大震災があった際に自主的に報酬をカットした時期があるが、あまり評価されなかった。【安達構成員(全国市議会議長会指定都市協議会)】
- 全国町村議会議長会では、昭和53年に町村長の給料月額約30%という標準の算定基礎を示したことがある。しかしながら、この40年間で議員の果たすべき役割・仕事は増えていることから、改めて学識経験者による町村議会議員の議員報酬等のあり方検討委員会を設置して研究してきた。なり手不足の一因として低額な報酬がある。【松尾構成員(全国町村議会議長会)】
- 報酬については、通年議会にするので報酬を上げて欲しいとした町村の例が見られる。上げるロジックがないとなかなか住民が賛同しないということがあるのではないか。【河村構成員】

(報酬減を主張する議員の存在について)

- 議員報酬を削ることを選挙の公約に掲げて立候補されている方がいるが、その方は、自分は余裕があるので他の人の報酬を削ってもいいという考えでやられているのか。あるいは、そういうことは聞いたことがないか。票を集める行為としてやられているのかどうかを感覚でいいので教えていただきたい。【河村構成員】
- 議員報酬を削減する主張は出雲市ではあまり聞かない。【川上構成員(全国市議会議長会)】
- 身を切る改革を主張している政党があり、神戸市でも出ている。議会費を節約することに意味がないとはいわないが、財政全体から見れば、ほとんど影響がない。いただいた報酬に見合った仕事をすべきだと思っている。【安達構成員(全国市議会議長会指定都市協議会)】
- 身を切る改革について、佐賀県では首長選挙では主張されているが、議員選挙

においてはあまりない。【松尾構成員(全国町村議会議長会)】

(選挙日程の統一化について)

- 統一地方選挙と時期がずれた際に、議会が自主解散すれば統一できるのではありませんか。今日の発表で言及された地方選挙の日程を統一化するプロセスについてどのような議論があるのか。【河村構成員】
- 平成17年に当初、2市4町で合併したが、一斉に選挙できるように任期を2年残して自主解散をした。【川上構成員(全国市議会議長会)】
- 神戸市では、阪神・淡路大震災により平成7年の統一地方選挙から任期がずれた。選挙と任期がずれたため、一般市民から見て、初めて選挙に当選された方がまだ議員になっていないという空白の2ヶ月間が生じていた。そこで、今回の任期について、3年10ヶ月とする特例法を作ってもらい、タイムラグが4年後に解消されることとなった。【安達構成員(全国市議会議長会指定都市協議会)】
- 選挙の統一化については、難しい問題。有田町では、かつて合併時に任期1年を残して新たな選挙に入った。統一するには、お互いが歩み寄っていかねばならない。統一は大事。【松尾構成員(全国町村議会議長会)】
- 平成の合併で駆け込み合併をしたところも多くあるので、4年に1度ではなく、2年に1度くらいで始められないか。今は五月雨式に選挙があるので、議員や政党は大変である一方で、盛り上がり欠けて低投票率化している。統一化のプロセスは大事だと思うので、議長会でも検討いただければと思う。【河村構成員】
- 首長選挙と議会選挙がずれると立候補者が減るという話を聞いたことがある。再統一はなり手不足の解消になるのではないかという気がする。【大山座長代理】

(その他について)

- 福島県議会では11月に選挙を迎えるが、私の選挙区は被災地で、住民票を残したまま各地に避難をしており、有権者がどこに住んでいるかわからない、調べようと思っても個人情報ということで教えてくれない実態がある。【吉田構成員(全国都道府県議会議長会)】
- 両議長会の代表から発表されたご意見については、今回の研究会で必要な事項としてご検討いただき、地方制度調査会にも伝えていただく必要がある。【吉田構成員(全国都道府県議会議長会)】